



きずな

2012年
(平成24年)

2

あなたも
わたしも大切に

特集テーマ
教育と人権



2 きょうだいげんか のじぎく文芸賞優秀賞作品
伊達絢菜さん(加古川市立鳩里小学校4年)

3 これからの人権教育
上杉孝實さん(京都大学名誉教授)

4 子育て中の親たちに
絵本の読み聞かせの楽しさを伝える
NPO法人「絵本で子育て」センター(芦屋市)

5 この人に聞け! 「心の教育」とは
古川雅文さん(兵庫教育大学 学校教育研究センター長)

6 スター・ペアレンティング
田上時子さん(NPO法人女性と子どものエンパワメント関西理事長)

7 震災遺児に寄り添う
八木俊介さん(あしなが育英会 あしながレインボーハウス・チーフディレクター)

8 情報ふらざ

2月22日 | 世界友情の日

2月22日はボーイスカウト、ガールスカウト運動の創始者ベーデン・パウエル夫妻の共通の誕生日。1963(昭和38)年の第19回ボーイスカウト世界会議で、開発途上国のスカウト連盟に援助する決議が採択され、世界友情基金が設立されたことを記念して制定されました。



特集

教育と人権

少子・高齢化の進展や家族形態の多様化で、地域で互いに支え合う力の低下が懸念される中、ますます人権尊重の精神と実践力を高めることが求められています。私たち一人ひとりが自分も他者も大切にすることを育み、互いを尊重し合える人権感覚を身に付けるにはどうすればいいかを考えてみましょう。



きょうだいげんか

だてあやな
伊達絢菜

きゅうり
加古川市立鳩里小学校4年

わたしには 5才はなれた弟がいる
わたしは 弟のゆうとが大きらいだ
ケンカをすると 「ねえねが…」と
いつも お母さんにつげ口する
お母さんも大きらいだ
ケンカをすると 「お姉ちゃんでしょ!」と
決まって わたしをしかる
わたしばかり わたしばかり!



そんなある日 お母さんが弟に話していた
「ついつい ねえねをしかるけど
ゆうとが悪い時もいっぱいあるよ
ねえねはしかられてばかりでかわいそう」
「うん…」

弟は しょんぼりしていた
そして お母さんは わかってくれていた
わたしばかりが悪くないということをお母さんは 教えてくれていたんだ
年上のわたしが 年下の弟に
もっと思いやりを持たなければならないと
ごめんなさい ゆうと
ねえねは ゆうとにやさしくなかったね
ごめんなさい お母さん
わたしばかりって いつも反こうして
お母さんは わたしにも弟にも
同じように愛情を注いでくれているんだね
やっぱり…
わたしは お母さんが大好きだ
そして 弟も大好きだ



メッセージ

これからの人権教育

京都大学名誉教授

上杉 うえすぎ孝實 たかみち さん

人間らしく生きるために

2011(平成23)年3月の東日本大震災では、多くの命が失われ、地域が破壊されました。それは、阪神・淡路大震災を経験した私たちにとって大きな衝撃でした。

人権は、命を大切にし、人間らしい生活を営む権利を意味します。お互いが尊重され、安全に暮らすことができる社会を築くことが課題となっているのです。

生活を支えるために経済活動は大事ですが、豊かさを求めている競争が人々に分断をもたらし、格差を生み出し、生存に必要な環境を破壊している側面もあり、それは是正されなければなりません。お互いの支えあいがあるからこそ、人間らしく生きることが可能になるのである。一人ひとりの価値を認め、連帯によって人権が尊重される社会づくりを目指す人権教育の重要性は、ますます高まっています。

地域での子育て

基本的人権は憲法や各種の国際条約にも

示されていますが、それが具体的に身に付くのは、子ども、高齢者、女性、障害のある人、外国人、同和問題など人権課題への取り組みを通じてです。幼少期から、それぞれがかけがえのない存在であることが実感できるようにはぐくまれ、互いに助けあって活動する機会を多く持つことによって、豊かな人権感覚が育ちます。

個々の家庭が孤立した状態では、そのような子育ては容易ではなく、住民相互のつながりによって地域の教育力を高めることが必要です。「ワーク・ライフ・バランス」ということもよく言われるようになっていきます。男女とも家庭や地域での生活を豊かにするために、それらと調和した職業生活が営まれるようにすることが課題となっているのです。

まちづくりと人権学習

住みよいまちづくりは、人権が守られることによって実現するのであり、人権教育とまちづくりをつなぐことが大切です。そのためにも、みずからの持つ可能性を伸ばし、自治

の力をはぐくみ、共同で取り組む姿勢を培う市民性教育と人権教育を重ねていくことが期待されます。人権学習で、話しあったり、体験したり、共同で作業するといった参加型学習が奨励されているのも、主体的に考え、行動することと関連づけてのことです。

高齢化が進むなかで、多様な世代が触れあい、支えあうことも大きな課題となっています。多くの人が高齢期に長く生きようになつており、年齢にかかわらずいきいきと生きることができるといえるのは、若い人も将来にわたる展望が持てることになります。人権学習を生涯学習の中心に位置づけて、人々との交流のある豊かな暮らしやすい社会づくりを進めたいものです。

.....

プロフィール

1935(昭和10)年生まれ。姫路短期大学や奈良女子大学の教員を経て、1978(昭和53)年に京都大学助教授に就任。1987(昭和62)年から1999(平成11)年まで教授。現在は名誉教授で、(財)世界人権問題研究センター客員研究員も務める。専攻は社会教育、教育社会学、人権教育。著書に『生涯学習・社会教育の歴史的展開』『地域社会教育の展開』、編著書に『生涯学習と人権』など。

子育て中の親たちに 絵本の読み聞かせの楽しさを伝える

NPO法人「絵本で子育て」センター（芦屋市）

最近、子育てを苦痛に感じたり、子どもがぐずったときに「自分はちゃんとしてあげているのに」と悩んだりする親が増えています。NPO法人「絵本で子育て」センターでは「絵本講師」を養成し、子育てに悩みを抱えている若い親たちに、絵本の読み聞かせの意義を伝えています。

なぜ読み聞かせが 育児に良いのか

2004（平成16）年に発足した同センターは、絵本の読み聞かせの意義を母親たちに伝える「絵本講師」を養成する講座を開催しています。受講生は1年かけて、絵本の歴史や読み聞かせの意味、講座の組み立て方などを学び、修了後は保育所や子育てサークルなどで「絵本で子育て」の普及に努めます。現在、全国で絵本講師の資格を持つ人は900人以上いるそうです。

「昔も今も、絵本の読み聞かせは子育てに欠かせないものです」と理事長の森ゆり子さん。現在でも読み聞かせに対する関心は高く、絵本講師が開催する絵本講座や講演会には多くの若い母親が参加しています。しかし、一方で子どもにどう接すればよいのか分からず、子育てに苦痛を感じている母親も増えていると言います。

「育児に困っている若い親の多くはモノの豊かな時代で育ったからか、便

利な育児グッズを買うことで『わが子にしてあげた』という充足感に満たされがちです。だから、子どもが気分を損ねると『ちゃんとしてあげているのにどうして?』とパニックになるのです。子どもを膝に乗せて絵本を読むことで親子のスキンシップを図ります。そこから感じ取る温もりと安心は、育児グッズでは得られません」

子どもと一緒に一喜一憂 絵本を通して心が通い合う

養成講座の受講生は年齢や職業もさまざま、子育て中の母親や妊婦もいます。現在、絵本講師として活躍中の舩谷裕子さんは長男が小学1年生の時に受講しました。

「子どものテンポに合わせてページをめくり、時には前の場面に戻ることも。絵本によって子どもと喜びや悲しみを共感し、心を通わすことができ、子育てに自信が持てました」と振り返ります。同センターではお年寄り向けの絵本



絵本講師による読み聞かせ会の様子
NPO法人「絵本で子育て」センター
芦屋市茶屋之町2-21-405
TEL 0797(38)7516 FAX 0797(38)7939
<http://www.holpforum.com/>
✉ holp@holpforum.com

の読み聞かせ会も開いています。以前、ある高齢者施設で絵本の主人公が登場する歌を歌おうとしたところ、全員、歌詞が出てこないことがありました。その絵本を読んだ後は、全く言葉が発しなかった認知症の人が、幼い頃に読んだ物語の内容を思い出して歌い始めたそうです。絵本は子どもの感受性を豊かにし、親子の絆を強めます。その楽しい思い出はいつまでも心に残るでしょう。



いいってどんなこ?（富山房）

作：ジーン・モデシット
絵：ロビン・スポート 訳：もきかずこ

小ウサギのパニーはいろいろなことが心配になって、次々にお母さんに質問します。でも、お母さんはいつも子どもを丸ごと受け入れて、「いまのまんまのパニーが大好き」と言ってくれます。



かみさまからのおくりもの

（こぐま社）
著：ひぐちみちこ

ある日、天使が5人の赤ちゃんに「個性」という素敵な贈り物を与えます。子どもにとって宝物である個性を大切にすることの意味を気付かせてくれます。

子どもに 読み聞かせ たい絵本

NPO法人
「絵本で子育て」センター
理事長 森ゆり子さん推薦



「心の教育」とは

この人に
聞く!

兵庫教育大学 学校教育研究センター長

古川 雅文さん

兵庫県では、中学2年生が地域で職業体験を行う「トライやる・ウィーク」をはじめ、さまざまな「心の教育」を実施しています。兵庫教育大学学校教育研究センターのセンター長で、県立教育研修所「心の教育総合センター」の主任研究員でもある古川雅文さんに、「心の教育」の現状や効果などについて聞きました。

Q 「心の教育」とはどのような教育ですか。

A 1995（平成7）年の阪神・淡路大震災、その2年後に神戸で起こった児童連続殺傷事件をきっかけに注目を集め始めた教育で、子ども一人ひとりがさまざまな活動や体験を通して命の大切さを実感し、自らの生き方を見つけていくことができるように支援するものです。

Q 昨年度、県内の小・中・高・特別支援学校を対象に「心の教育」の実施状況の調査が行われました。その結果からどのようなことが分かりましたか。

A 兵庫県ではこれまで「心の教育総合センター」の設置や、中学校で職業体験を行う「トライやる・ウィーク」の実施、震災・学校支援チーム「EARTH」の立ち上げ、「命の大切さを実感させる教育」の推進など、さまざまな活動を行っています。各学校で子どもたちの状況に応じた「心の教育」に関連する授業や講演会なども実施され

ていることが分かりました。そのような取り組みの結果、不登校や暴力、いじめの件数が減少するなど効果が表れていることが明らかになりました。



プロフィール

広島大学大学院博士課程修了後、富山大学教育学部助手などを経て、1987（昭和62）年、兵庫教育大学学校教育研究センター助教授に就任。2002（平成14）年に教授となり、2006（平成18）年からは同大学大学院教授も兼務する。

Q 教員の「心の教育」に対する意欲は。

A 調査結果から今後取り組みたい活動についても知ることができました。例えば、担任がカウンセリングやストレスマネジメントなどの専門家の協力を得る機会を増やし、授業をより充実させたいという声が目立ちます。

Q 「心の教育」の充実には地域の協力も欠かせないのでは。

A そうです。「トライやる・ウィーク」のように、地域の人や地元企業・団体にも積極的に関わってもらうことが大切です。子どもたちは地域の大人との関わりを通して、自分の存在を認めてもらうことの喜びを感じ、それがコミュニケーション力の育成にもつながります。このような経験をした子どもたちが大人になった時、今度は自分たちが地域の一員として子育てに協力するという循環が生まれると思います。漁師が山で木を植える活動のようになれば理想ですね。

Q 被災地の子どもたちへの心のケアを含む「心の教育」については。

A 阪神・淡路大震災を経験したことにより、兵庫県内には心のケアに関するさまざまな実践プログラムの蓄積があります。東北の子どもたちにも十分に活用できると 생각합니다。



きつねやぶのまんけはん
（NPO法人「絵本で子育て」センター）

作：中川正文 画：伊藤秀男
大和の善教寺という寺の近くにすむ、いたずら好きのきつねと村人たちが織り成すユーモラスな交歓を描いています。大和弁による軽妙なリズム感も魅力です。



おかあさんもようちえん
（NPO法人「絵本で子育て」センター）

作・絵：梅田俊作、梅田佳子
「まるごと園」という幼稚園に通う子どもがいるお母さん、ミチコさんの奮闘ぶりをほのぼのと描いています。



かしこいビル（ペンギン社）

作・絵：ウィリアム・ニコルソン
訳：まつおかきょうこ、よしだしんいち
兵隊人形のビルが、持ち主の女の子に旅行に連れて行ってもらえず、部屋に置いてきぼりにされたことから始まる物語。擬人化したビルが巻き起こす数々の騒動に引き付けられます。

スター・ペアレンティング

叩かず甘やかさず子育てする方法

NPO法人
女性と子どものエンパワメント関西理事長

田上 時子さん



子どもを取り巻く環境は激変しており、核家族・少子化傾向の中、幼い子を世話することも、触れる機会もない(つまり親の予行演習がない)世代が親になっていきます。育児が難しい時代に入ったといえます。

伝統的な子育て法だけでは現代社会の育児は追いつけない、今の親子が直面する問題解決の糸口になる親としてのスキルと情報を提示しようと、当NPO法人は1996(平成8)年にアメリカで開発された「スター・ペアレンティング(Star Parenting)」親教育プログラムを紹介し始めました。プログラム開発者のエリザベス・クレアリーを招聘してファシリテーター養成講座を開催し、プログラムを提供する人材を養成しました。今では関西以外でも東京、名古屋、佐賀を拠点に全国的に広がっています。

スター・ペアレンティングでは、親の役割は「LOVE & LEARN」の大きく二つがあり「愛情と制限を与える」ことを意味します。子どもの健全な心身は親の愛情なくしては育ちません。しつけの名のもとで子どもを叩く親は必ず「あなたが悪い。だからその悪さを直してやる」と言います。親の都合のいい弁解です。「親の言うまま思う通りにしているなら愛してやるよ」と、きかないなら叩くは、どちらもその愛情は「条件つき」であり、子どもの育ちに必要な「LOVE」ではありません。

また、親は「制限を設ける」という役割があります。子どもの欲しがままにモノを買い与えたり、制限を設けずに子どもの言いなりに甘やかせて育てると、子どもは自己中心的な人間になり、自分と他者との間にある境界線を学ぶことなく、簡単に他者との境界線に踏み込んだり、人権侵害を受けたりする結果になります。

スター・ペアレンティングはあらゆる親子の問題は解決できるという前提で、その方法論と選択肢を提示します。どれを使うかは子どもの年齢、生まれ持った気質、親の価値観によっても異なり、選ぶのは当事者である親自身という考えで、決して「こうしなさい。こうあらねばならない」とは言いません。スター・ペアレンティングの情報とスキルは効果的にさまざまな場面で使えます。詳しく知りたい方は参考図書やホームページをご覧ください。幸いです。

参考図書:『叩かず甘やかさず子育てする方法 スター・ペアレンティング STAR Parenting』(築地書館) <http://www.starparenting.jp/>

プロフィール

早稲田大学卒業後、カナダに留学。1988(昭和63)年帰国。2000(平成12)年にNPO法人女性と子どものエンパワメント関西の理事長に就く。大阪府男女共同参画推進財団監事、神戸市看護大学非常勤講師、NPO法人CAPPセンター・JAPAN副理事長も務める。



試写室 バビロンの陽光 (2010年・イラク、英国など)

2003年、フセイン政権が崩壊して3週間後のイラク。北部に住むクルド人の老婆は戦地に出向いたまま帰らない息子を探しに、アラビア語が分かる孫を伴って旅に出ます。息子が収監されていると思われる刑務所までの道のりはおよそ900キロ。

息子が投獄されたのは12年前で、孫は父親の顔を知りません。トラック運転手やタバコ売りの少年に助けられながらようやく刑務所にたどり着くと、そこには同じように身内を探す女性たちが何人もいました。結局、息子は見つからず、

二人は、クルド人虐殺に荷担し心に傷を負った元兵士の好意にも助けられて、共同墓地を訪ねます(イラクでは300の集団墓地から何十万もの身元不明遺体が発見されているそうです)。

荒涼とした砂漠や壊れた建物が背景に写し出され、イラクの荒廃と人々のやるせなさが伝わってきます。しかし、孫の力強いまなざしと、民族を越えて許し合い助け合う人々の姿が一筋の光を感じさせます。2月17日(金)、18日(土)に神戸朝日ホールで上映されます。



監督:モハメド・アルダラジー 出演:ヤッセル・タリーブ、シャーザード・フセイン ほか 90分
問い合わせ▶神戸映画サークル協議会 TEL 078(371)8550

WATCH



「おしゃべり部屋」で行う心のケアプログラムでは家族のことや悩み事などを語り合います。子どもたちにとって同じ境遇の仲間との出会いが前向きに生きるための心の支えになります

震災遺児に寄り添う

あしなが育英会
あしながレインボーハウスチーフディレクター

八木 俊介さん
やしき としゆき



子どもたちに寄り添って感じる

東日本大震災によって約2千人の子どもが、遺児や孤児になりました。父親が母親、もしくは両親共に亡くしてしまった東北の遺児たち。

大変な経験をしたにもかかわらず、多くの子どもたちは、勉強やクラブ活動など前向きに頑張っています。しかし、一部の遺児たちは、精神的なダメージを受け止めていません。

先日、あしなが育英会の東北事務所に届いた、遺児保護者からのお手紙に、こんな子どもたちの様子が書かれていました。

「無気力。部屋に引きこもり、通学できない」「転校先のクラスに馴染めず、友達もできないでひとりぼっちでいる」「毎日イライラし、大声を出しては泣く」「夜眠っているときに何度も『お家に帰りたい』

と寝言を言う」「赤ちゃん返りや指しゃぶり、ひどい潔癖症になった」「『パパが亡くなったので、私も死にたい』と精神科に受診している子」

17年前の阪神・淡路大震災の遺児たちを思い出します。彼らも当時、同じように大きな心の傷を受けました。

レインボーハウスの役割と意義

1999(平成11)年に阪神・淡路大震災の遺児たちの心のケアセンター「神戸レインボーハウス」を開設しました。ハウスには、ケガをしないように暴れることができる「火山の部屋」、泣いたり、考えごとができる「想いの部屋」、ソファが円形になっていて、みんなの顔を見ながらお話しができる「おしゃべりの部屋」などがあります。言葉だけでなく、いろいろな方法で悲しみを表現できるように工夫されています。

子どもたちには、訓練を受けた心のケアボランティア「ファシリテーター」が寄り添います。ファシリテーターは安全、安心な場所や時間を提供しながら、子どもたちとの信頼関係を築きます。また子どもたちは同じように親を亡くした友達を作ります。そうして学校や家では話せない、胸にしまっていた家族への想いや自分の心情を語れる、心を許せる人たちと出会いました。

成長した阪神の遺児たちは、「レインボーハウスの友達は、亡くなった親が出会わせてくれた、最高のプレゼント」と口にします。ハウスには、悲しい想いを癒やし、親を亡くして

あしなが育英会では、東日本大震災で被災した子どもたちのための「東北レインボーハウス」の建設に向けて寄付を募っています

- ①郵便振替 口座番号「00120-7-355615」
加入者名「あしなが東北レインボーハウス建設募金」
- ②クレジットカード
ホームページでクレジットカードによる寄付を受け付けています。 <https://ashinaga.donation.fm/index3.html>
- ③現金書留 〒102-8639 東京都千代田区平河町1-6-8
平河町貝坂ビル3階
あしなが育英会「東日本大地震・津波遺児募金」

●問い合わせ

あしなが育英会 東日本大地震・津波緊急対応本部
TEL 03(3221)0888
FAX 03(3221)7676



も「自分ひとりじゃない」と感じ、孤立感を薄め、心のケアのみならず、勉強や運動を頑張る気持ちにさせる力があります。子どもたちには、自分のためだけでなく、他の人の幸せを考えられる人、恩返しできる人になってほしいと願っています。

東北の遺児たちのケアを目的に「東北レインボーハウス」の開設も計画しています。阪神・淡路大震災の場合と異なることもあります。が、「ひとりじゃないよ」というメッセージを伝え続けて、10年、15年と未永く見守っていきたいと考えています。

プロフィール

1993(平成5)年にあしなが育英会に入局。阪神・淡路大震災の直後から神戸事務所に勤務。1999(平成11)年の神戸レインボーハウスへ、2007(平成19)年のあしながレインボーハウス(東京都日野市の開設に中心的な役割を果たし、遺児の心のケア活動に携わる。著書「レインボーハウスの子どもたち」。

情報ぷらざ

神戸新聞のトップページから 人権関連のコンテンツにアクセス

神戸新聞のホームページに「人権文化をすすめる県民運動」のバナー広告を掲載しています(3月末まで)。バナーをクリックすると、別のウインドウが開いて、同運動に関するQ & A、「きずな」のバックナンバーなどのコンテンツにアクセスできます。



- ① 神戸新聞ホームページにアクセス
(<http://www.kobe-np.co.jp/>)
- ② 右上のバナーをクリック
※他のバナー広告が表示されている場合は、ブラウザの「更新」を何度かクリックしてください
- ③ 別ウインドウが開きます



平成23年度 「人権のつどい」に 500人が参加

昨年12月1日、県公館で「人権のつどい」を開催しました。この行事は「人権文化をすすめる県民運動」の一環として平成16年度からスタート。今年度は約500人が集まりました。のじぎく文芸賞の表彰式に始まり、歌手の森祐理さんの「ハートフル人権コンサート」、締めくくりの講演にはテレビでもおなじみの弁護士、住田裕子さんが登壇。「心、命を大切に」と題して、つながりや絆を深めること、多様性を認め合うことの大切さを訴えました。

「人権のつどい」の概要は兵庫県インターネット放送局「ひょうごチャンネル」でご覧になれます。

※アクセスは「ひょうごチャンネル」で検索



イベントガイド

神河町人権啓発講演会	●日時／2月11日(土・祝)9:50～11:50 ●場所／神河町中央公民館グリーンデルホール ※JR播但線「寺前」駅から徒歩約7分 ●テーマ・講師／「ぬくもりを感じて」中倉茂樹さん (徳島県人権啓発青少年団体連絡協議会「止揚の会」事務局) ●問い合わせ／神河町教育課 TEL 0790(34)0212
猪名川町人権・同和教育研究協議会研究大会	●日時／2月12日(日)10:00～15:00(基調講演 10:15～12:00、分科会 13:00～15:00) ●場所／猪名川町文化体育館(イナホール)など ※能勢電鉄「日生中央」駅から阪急バス「パークタウン中央イナホール前」下車すぐ ●内容／基調講演「賤民廃止令(解放令)と日本国憲法」上杉聡さん(大阪市立大学人権問題研究センター特別研究員)、分科会(研究発表) ●問い合わせ／猪名川町参画協働課人権推進室 TEL 072(768)0217

ハーフ タイム

今月号で紹介したNPO法人「絵本で子育て」センターでは、絵本講師の養成のほか、絵本の制作もしています。先日、書店に立ち寄った時、久しぶりに絵本のコーナーで何冊かめくってみました。娘が幼い頃、寝かし付けるのに一緒に横になって読んでいたことを思い出します。初めは登場人物や背景を説明しながら読んでいたのに、娘はいつの間にか眠ってしまい、気が付くと、私もすっかり寝てしまっていたという

のが何度もありました。娘は当時のことをしっかり記憶していて、今でも「お父さんの方が早く寝ていた」と笑われ、雑談の中で当時の様子をバラされてしまいます。

あの頃、よく読んだ絵本の中には、今読んでも心癒やされる物語もあります。たまには活字ばかりの本から離れて、空想の世界に浸ってみるのもいいかと思うこの頃です。(田中)